

団体名	NPO法人 障がい者スポーツ Friendly Action	活動タイトル	障がいのある子供を抱える保護者が夢や希望を持てる事業						
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景						
● 望ましい社会状況(ビジョン)	当団体の実現したいビジョンは、わが子の将来が不安な知的・発達障がいのある子供を抱える保護者が、障害のある子供達にとって、生涯スポーツへ取り組むことが自立した生活にいかに関与か？を理解できる機会や場が整っていること。かつ地元でわが子が安心してスポーツへ参加させることできる環境が整っていることである。		 <p>練習の様子①</p> <p>障害者スポーツアスリートと一緒に練習している風景です</p>						
● 団体の社会的役割(ミッション)	障がいのある子供を抱える保護者が、障がい者にとって、生涯スポーツへ取り組むことの重要性を理解し、夢や希望を抱いただくことである。具体的には、以下のような取組を推進する。 ①保護者が、安心してわが子を参加させ、保護者間との活発な交流ができる障害児スポーツの場を設けること。 ②保護者が、障害者アスリートの練習場面を見学し、アスリートやその保護者、支援者と交流する場を設けること。 ③保護者が、障害者を多く雇用する企業を見学し、障害者社員や支援者社員と交流する場を設けること。								
● 団体の活動基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人材の確保と育成：子どもの頃からスポーツへ参加させることの重要性を理解した保護者の増加とそのニーズに応えることが出来る地元町クラブと障害者スポーツ専門家を育成する。</li> <li>● 物的資源：スクールを指導する講師や会場の確保は町クラブとのネットワークの構築で改善される。障害者アスリートチームと障害者雇用企業側にも本事業のメリットを実感してもらえるような協力体制を構築する。</li> <li>● 活動資金：本団体においては関西のみ継続した自主運営を目指す。他地域については地元町クラブの自主運営を目指す。そのための人材の確保及びネットワークを構築する。</li> <li>● ナレッジ：本事業はサッカーで知的・発達障害児が対象である。作成したガイドラインを生かし他のスポーツや他の障害へも反映させることをめざす。</li> </ul>								
■ 活動報告			■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)						
<p>障がい児サッカースクール体験・保護者交流会：実際に行うことで事前に協力いただけた保護者の意見を十分取り入れた上で、障がいのある子供の能力に合わせたサッカースクールを開催し、保護者間との交流を回数を重ねながら自然に促していった。</p> <p>障がい者アスリートチーム練習見学会・交流会：コロナ渦のため、活動を中断していた団体が多く、事前に実際に行った上で協力保護者から意見を聞くことはできなかったが、2022年1月に指導者を中心に保護者との質問や交流会を設けた。</p> <p>障がい者雇用施設見学会・交流会：コロナ渦のため会社への見学会はできなかったが、オンラインで事前に協力いただいた保護者の意見を十分取り入れた上で、障がいのある者を多く雇用する企業の職員からの講演を実施した。</p> <p>本活動実施要項の作成：事業延期ができたため、5名の地域サッカークラブチームの指導者へ意見を聞き、ガイドラインも作成できた。</p>			<p>障がい児サッカースクール体験・保護者交流会：計3回（2021年10月、11月、12月）に実施でき、毎回20名程度の保護者が参加し、10名～18名の保護者が効果判定に協力してくれた。</p> <p>障がい者アスリートチーム練習見学会・交流会：計1回（2022年1月）に実施でき、10名の保護者が参加し、全員効果判定に協力してくれた。</p> <p>障がい者雇用施設見学会・交流会：計1回（2021年6月）に実施でき、18名の保護者が参加し、全員効果判定に協力してくれた。</p> <p>本活動実施要項の作成：5名の地域サッカークラブチームの指導者へ意見を聞き、ガイドラインを作成できた。</p>		 <p>練習の様子②</p> <p>サッカースクールは感染対策のため、1人ずつ順番に行った風景です</p>				
■ 事業を通じて得られたノウハウ			■ 望ましい社会状況を達成するための課題						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナによる自粛生活の長期化により、保護者の自己効力感の低下やわが子の運動への重要性が高まり、本事業のニーズが更に高くなったこと。</li> <li>・コロナ渦でも実施できるようオンラインを使用して保護者間の交流や情報発信等、可能な範囲で行い、一時の終息時期に集中してスポーツを行うことで保護者が元気になり子育てに柔軟に対応できるようになることがわかったこと。</li> <li>・保護者は障害者雇用のことや障害者スポーツ団体等、我子の将来へ希望が持てるような情報を得る機会が少ないこと。</li> <li>・本事業で作成したガイドラインで地元サッカークラブチームの指導者は本事業の重要性やその成果を十分理解することはできるが、新規参入するまでには、リスク管理を中心とした講習とコロナ渦を考慮した導入時期の検討が必要であること。</li> </ul>			<p>本事業は全て参加される保護者の満足度が高く、自己効力感を高める効果があり、また事業1～3を組み合わせて行うことによって子育てレジリエンスも向上できることが実証された。ガイドラインを作成したことによって、他地域の他団体でも事業を運営できるきっかけを作ることができた。</p> <p>今後の課題は、山間部や少子高齢化・人口減・スポーツ設備が脆弱な地域・サッカーだけでなく他の競技、車椅子や自宅から出ることができない障がい重い子供たちを抱える保護者へも同様な効果が期待できるガイドラインの作成が必要である。</p>		<p>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p> <table border="1" data-bbox="2003 1596 2798 1795"> <tr> <td data-bbox="2003 1596 2178 1795">この1年間の活動を通じて</td> <td data-bbox="2178 1596 2597 1795">障害のある子供を抱える保護者に希望を与える方法や成果についての実施要項の作成</td> <td data-bbox="2597 1596 2798 1795">を達成しました。</td> </tr> </table> <p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p> <p>障害のある子供を抱える保護者の自己効力感と子育てレジリエンスが向上した。</p>		この1年間の活動を通じて	障害のある子供を抱える保護者に希望を与える方法や成果についての実施要項の作成	を達成しました。
この1年間の活動を通じて	障害のある子供を抱える保護者に希望を与える方法や成果についての実施要項の作成	を達成しました。							